

日本列島の古代史

約 3 億年前白亜紀の日本は大陸の一部であり、兵庫県丹波、福井県勝山からは恐竜ティタノサウルスの化石が発見されています。

地殻変動によって大陸から分離して、弓状の日本列島ができたのは、500 万年前だと言われています。その後、火山による地殻変動、氷河期を繰り返し現在に近い日本列島の地形が作られました。しかし氷河期でも津軽海峡と対馬海峡は氷結しなかったため、大陸とは地続きにはならなかったため、日本独自の歴史を歩みました。

約 200 万年前には日本固有の明石象が、日本国内に広く生息していたことが分かっています。

12 万年～5 万年前の旧石器時代に、最古の日本民族と言われる明石原人ニッポナントロプス・アカシエンスの化石と石器・加工木製品が出土しました。その人骨化石を巡って、原人かヒトかの論争が続きましたが、その化石が戦災で焼失したため、遺伝子検査は不可能となりました。

大陸とは地続きだったのは、人類の発生以前だったことから、大陸と日本は別の人種だと考えられます。南方の島から何らかの方法で海を渡って、日本に来たという説もあり、藁船、竹船、丸木船を使った実証実験が台湾と沖縄間で行われ成功しましたが、これは単なる状況証拠に過ぎません。

日本人の遺伝子

アリゾナ大学の研究の結果によれば、日本人男性 62.1%の遺伝子は、Y 染色体 D1b 34.7%、O-47Z 22%、C-M 4.4%という固有の遺伝子を持ち、他国には見られない特殊な遺伝子であることから、大陸や南の島々から渡来した民族ではなく、日本固有の民族だと考えられます。この配分の遺伝子配列は海外における遺跡人骨の中には未だに出土せず、ほぼ日本に限定されているのです。更に、Y 遺伝子の YAP 再分類によると日本人の Y 遺伝子が 35%を占め世界中でも孤立した状態であることも分かっています。

世界のノーベル賞受賞者の遺伝子検査の結果、Y 遺伝子 D1b がお大きく関与していることが分かりました。日本人のノーベル賞受賞者が極めて

多く、Y 遺伝子 D1b を持たない朝鮮人がノーベル賞皆無である事実がこれを証明しています、

特に日本人男子に固有の Y 遺伝子 D1b は極めて優秀な遺伝子なので、劣勢な朝鮮人や支那人の Y 遺伝子(男)と日本人 X 遺伝子(女)が結合して男子が出生した場合、日本の将来を危うくするという論文もあります。遺伝学上は日本人男性と外人女性の結合は問題ないが、外国人男性と日本人女性が結合して男子が生まれた場合には問題ありと言うことです。

最も日本人に近い遺伝子を持っているのはチベット人のみであり、中国人、韓国人の遺伝子には全く近似点はありません。

石器時代



黒曜石石器



群馬・岩宿遺跡

富士山の火山活動によって火山灰が堆積して関東ローム層ができました。3万3千年前には黒曜石が採掘された関東ローム層の群馬・岩宿遺跡があり、日本独自の文化として、世界最古の磨製石器が発見されています。

長野県野尻湖遺跡の約4万年前の地層からナウマン象の化石が発見されています。

1万6千年前には、世界最古の縄文遺跡と言われる青森・大平山元遺跡があり、土器、弓矢、研磨石器が出土しています。

1万2千年前、最終氷期が終了し、急激な温暖化による海面上昇が始まって、日本列島が現在の形になりました。

縄文時代



縄文土器



遮光器土偶

縄文時代における最大の特徴は、縄目の模様のついた縄文式土器です。世界的には、臀部を誇張した女性像が多いのに反して、宇宙人にも似た遮光器土偶は、日本独特のものです。



三内丸山遺跡塔舎復元図

縄文時代の最も有名な遺跡は、青森県の三内丸山遺跡であり、約千軒以上の集落があり、復元作業によって、高さ約15メートルの木製の檣が立っていたと推測されます。

直径2メートル、深さ2メートルの柱

の穴が、4.2メートル間隔で六つ発見されました。その柱の穴から推定すると、5階建てのマンションの高さに相当します。2千点の土偶、1万点以上の土器、その他にも高度な技術で作られたさまざまな木製品、貝の装飾品、動物の骨や角でつくった釣り針、ヒスイの加工品などが出土しています。

極東の島国に、エジプト文明やメソポタミア文明、インダス文明や、黄河文明に匹敵する、固有の古い文明があったのです。

約6千年前の縄文時代末期には、岡山・寝鼻貝塚からは佐賀県において稲作や野菜の栽培や家畜の飼育が行われていた痕跡が残っていますし、この頃に作られたと思われる鉄器や青銅器が数多く出土しています。

弥生時代

紀元前4世紀頃からは九州地方で稲作が始まり、紀元2世紀には東北地方まで広がります。

この時代には、大陸から数多くの弥生人が渡来して日本に定住しました。これにアイフ民族、南方系の民族加わって現在の日本人を構成していると思われます。

稲作には共同作業が必要なので、集落ができました。食料を保存するための高床敷の倉庫、日用道具として弥生式土器が使われました。祭祀用品として銅剣、銅鐸などが作られました。

代表的な遺跡として、奈良・唐古遺跡、静岡・登呂遺跡、坂・吉野ケ里遺跡があり、島根・神庭荒神谷遺跡からは銅剣、銅鐸、銅鉾が出土されました。



高床敷倉庫



弥生土器

古墳時代

落が成長すると、その中に階級社会が成立しました。大和朝廷が勢力を拡大して、3世紀から7世紀にかけての古墳時代に統一国家が完成したと思われます。

古墳は地位の高い人がその権力を表す象徴として作られ、前方後円墳や円墳などがあります。

仁徳天皇陵はエジプトのクフ王のピラミッド、中国の秦の始皇帝陵と並び世界3大墳墓の一つといわれ、前方後円墳という日本独自の形で、5世紀中ごろに築造されたと推定されています。



仁徳天皇陵

日本最大の前方後円墳で北側の反正天皇陵古墳(田出井山古墳)、南側の履中天皇陵古墳(石津ヶ丘古墳)とともに百舌鳥耳原三陵と呼ばれ、現在はその中陵・仁徳天皇陵として宮内庁が管理しています。全長約486m、後円部径約249m、高さ約34.8m、前方部幅約307m、高さ約33.9mの規模で3段に築成されています。左右のくびれ部に造出しがあり、三重の濠がめぐっていますが、現在の外濠は明治時代に掘り直されたもので

す。女性頭部像や水鳥、馬、鹿、家など埴輪や須恵器の壺が出土しています。最近世界遺産に登録され、部分的な発掘調査が進められています。